

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年4月)
～緩やかな上昇基調を維持～

発表日2006年6月15日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 結城 良彦
TEL : 03-5221-4573
(単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.5	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.2	2.1	3.7	▲1.6	0.4	1.5	1.6	▲0.2	2.1	0.7	2.1
	4-6月	0.2	1.9	▲0.9	0.9	1.2	▲0.2	▲0.5	0.9	▲0.1	▲0.1	0.3
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲0.7	▲0.1	▲0.2	3.0	0.7	0.0	0.0	0.6
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲0.2
06	1-3月	0.3	2.0	▲0.7	▲1.3	0.6	0.6	▲1.1	▲0.7	1.2	0.9	0.6
05	1月	1.6	3.1	3.5	▲2.8	0.5	4.1	2.5	▲0.6	▲0.5	0.8	1.3
	2月	▲0.7	1.5	2.0	0.8	▲0.5	▲2.4	▲0.7	0.3	▲0.6	▲0.5	▲0.2
	3月	▲0.4	2.0	▲0.7	▲1.2	1.9	▲2.2	▲0.2	▲1.2	0.0	0.5	▲0.5
	4月	1.0	1.9	▲0.2	1.0	0.3	2.6	0.2	1.1	0.3	▲0.1	0.8
	5月	▲0.8	1.9	▲2.1	▲1.0	▲0.8	▲1.0	▲0.3	0.8	▲0.4	▲0.2	▲0.9
	6月	0.6	1.9	1.8	3.4	1.2	0.4	▲0.3	0.1	0.1	▲0.3	1.5
	7月	▲0.3	1.3	▲3.2	▲2.9	▲0.6	0.1	1.1	▲0.2	▲0.2	0.1	▲0.4
	8月	1.1	3.2	3.9	1.0	0.3	0.7	2.5	1.1	0.0	0.6	0.7
	9月	▲0.7	2.0	0.6	▲0.8	▲0.6	▲2.1	1.3	▲0.5	0.9	▲0.7	▲0.5
	10月	1.0	3.2	0.4	4.6	▲0.4	1.6	1.5	0.9	0.2	0.0	0.0
	11月	0.3	2.7	▲0.4	▲3.1	0.3	0.9	1.0	▲0.2	▲0.5	0.7	0.4
	12月	0.0	2.2	5.3	▲0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲1.2
06	1月	1.5	2.3	▲2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲0.3	▲1.0	0.7	1.9
	2月	▲1.4	2.5	▲1.5	▲2.8	▲0.8	▲3.5	▲1.9	▲1.3	1.6	▲2.0	0.7
	3月	▲1.1	1.2	▲0.8	▲2.3	2.3	▲1.9	▲2.9	0.0	0.6	1.8	▲2.9
	4月	1.3	1.8	2.0	▲2.5	0.4	2.9	2.0	1.1	▲0.2	▲1.2	2.2

(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数：前月比+1.3%と3ヶ月ぶりの上昇

4月の第3次産業活動指数は前月比+1.3%と市場予測（コンセンサス+1.0%、レンジ▲2.2%～+1.5%）を上回る伸びとなり、3ヶ月ぶりの上昇となった。内訳をみると、卸・小売業、サービス業、金融・保険業、電気・ガス・熱供給・水道業など、主要11業種のうち7業種が上昇に寄与した。過半数の業種がプラスとなったのは3ヶ月ぶりである。このうち、影響が大きかったのが卸売業で、前月比寄与度が+0.73%ポイントと全体を大きく押し上げた。このほか、サービス業（前月比寄与度+0.46%ポイント）や、証券業（同+0.23%ポイント）が比較的大きな押し上げ要因となっている。

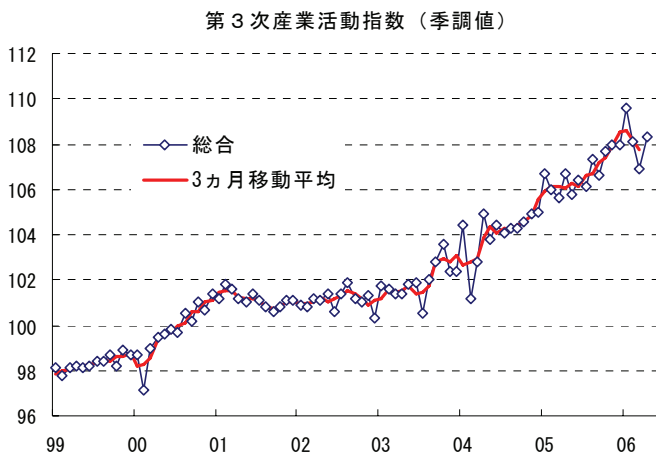
一方で、マイナスに寄与したのが情報通信業（前月比▲2.5%）、医療・福祉（同▲1.2%）、学習支援業（同▲5.7%）、飲食店・宿泊業（同▲0.2%）の4業種だ。なかでも下げ幅の大きかったのが情報通信業（前月比寄与度▲0.24%ポイント）であるが、これは年度初めでデータが間に合わなかったため、前年の値から推計した暫定値を用いたことが影響しているとみられる。来月の指数公表時には、数値が大きく変動する可能性があることに留意が必要だ。

○ 今後も緩やかな拡大を維持

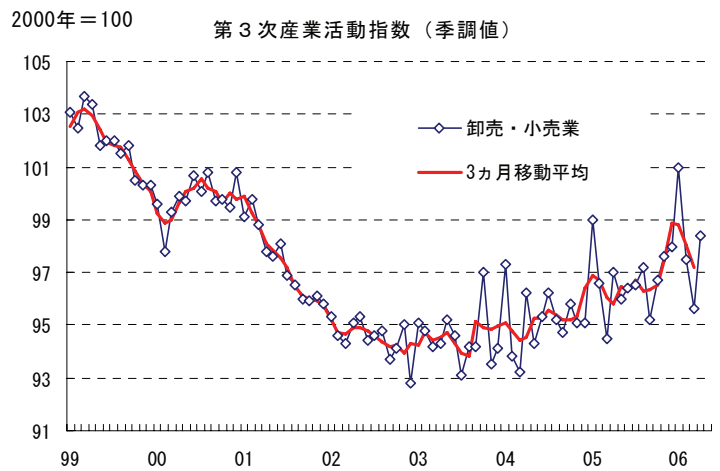
第3次産業活動指数は、2、3月と2ヶ月連続でマイナスとなっていたが、今月は市場予想を上回る上昇となった。前回落ち込んだ反動の面もあるが、全体として見れば、景気回復の底堅さを改めて確認できたといえよう。4月の1-3月期比も小幅ではあるがプラスになっている。今後に関しても、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が堅調に推移することを考慮すれば、第3次産業活動指数の上昇基調は持続していくと考えられる。

○ 4月全産業活動指数も上昇と予測

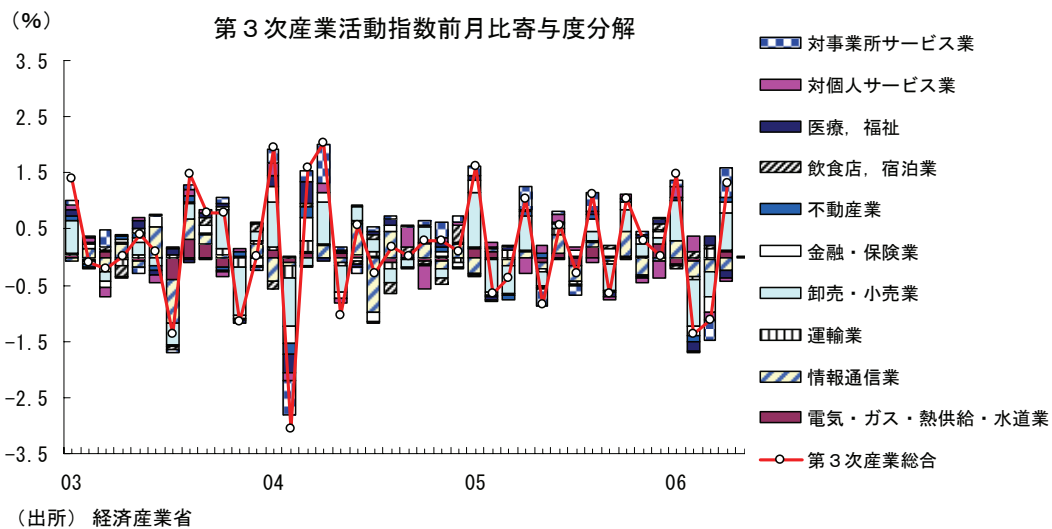
先月まで同時に公表されていた第3次産業活動指数と全産業活動指数であるが、経済統計の公表早期化の流れのなかで、第3次産業活動指数の公表は今月から約1週間早まっている。一方、建設業活動指数の公表は早期化されていないことから、全産業活動指数は従来通りのスケジュールでの公表となっている。22日に発表となる4月の全産業活動指数を公表済みの鉱工業生産指数、第3次産業活動指数等から予測すると、前月比+1.3%となり、3ヶ月ぶりに上昇する見込みだ。これは今回、第3次産業活動指数がプラスであったことに加え、鉱工業生産指数も前月比+1.4%と堅調な結果であったことによる。この値から計算すると、4月の水準は1-3月期平均を+0.7%上回る。1-3月期のGDP 2次速報では、内需の拡大により上方修正となったが、4月の全産業活動指数も底堅い景気の回復を確認できる結果となろう。



(出所) 経済産業省



(出所) 経済産業省



(出所) 経済産業省